

宇宙の果実達へ

長らく彫刻制作には「いい彫刻を作ろう」とか「いい作品を作らなきゃ」という気負いがあったように思う。それはどこか自覚なしに他者の意識や目を基準にしたり付度していたところがあったかもしれない。そんな中、自分の存在の基準値はどこにあるのか？、友人知人、1つ1つの命や魂の存在の基準値はどこにあるのか？、そんな事を考えていたら、「みんなこの宇宙が生み出した宇宙の果実なんだよなあ〜」と思った。そう思った瞬間にこの宇宙の全ての存在が愛おしく感じられる変化がおきた。自分も友人知人も、動物も虫も草木も、大地や海や宇宙も星も、この世界に出現した全ての存在はみな宇宙の果実なんだと思えた。その意識の変化は彫刻制作にも影響し始め、ただその思いだけのチャンネルで斧で木を叩けるようになっていった。そして「いい彫刻を作ろう」とか「いい作品を作らなきゃ」という気負いを手放せていることに気付いた。それはいわゆるアート界というテーマパークの外に出て気の向くまま歩き回るような感じで、粘土を与えられた子供がいつまでも手捻りで粘土遊びをしているような感じだ。なんだかこの宇宙が無くなるまで永久に斧で木を叩いて遊んでいられそうだ。たった一言の言葉、「宇宙の果実」を見つけたことは、これまでの僕の作家人生に大きく影響し根本的変革をもたらしている。

安藤 榮作